

春のざわめき

久 仁 京 介

2月の下旬のことでした。杉並区や渋谷区あたりに部屋を借り仕事場としてきた30年を越える長きにわたる身についた放浪癖に、いよいよ見切りをつけることとしました。

渋谷区代々木が最後の場所、そこから東京都下国分寺市の愛する家内の棲む在所、自宅に戻って来たのです。

最近のレコード界の事情に鑑みいよいよこのままでは救われれないと思ったことが一番です。さらにご存じの通り、それといつどうなっても可笑しくない高齢だと周りの人たちはいうのだ。それは否定出来ない。つまり命の問題が浮上してきた。80歳を超え81歳を迎えると急激に身体のあちこちに加齢の症状がでてきた。あれっ!こんなはずじゃないのに、あれっ!あれっ!で優勝してしまった阪神という野球チームもあるが、それどころじゃないと思えることが増えた。いつまでも若がってはいられない、と神妙な面持ちになった。

そして仕事場の引き払うことを決断。それからが大変。

40年以上となれば、押し入れや棚に置かれた本や物や雑材消耗品がわんさか。今となれば何でこんなものがあるのか、なぜ取ってあったのか。忘れていた昔の写真がたくさん出てきた。もちろん高校時代の我々が写った写真もあって、しばし眺めてしまう。

もちろんその後の何千枚ともいえる写真があって、捨てきれない思いもあったが泣く泣く処分した。それでも特に三羽鳥と云われた鶴木くん、白根くん、そして私の写真はさすがに残した。

重いものを持って立ったり座ったり、抱えたり運んだりした足腰が悲鳴を挙げている。申し訳ない話だが能登地震の後だけに、被災者の方々の後片付けや復興のご苦勞が重なってしまうが、一緒になるものではない、しかし今の自分のつらさを重ねている自分がいて、大変無駄な話だと反省する。